

ほし 彩星だより 第67号



若年認知症家族会・彩星の会会報 平成26年5月14日

〒160-0022 新宿区新宿1-25-3-302 TEL 03-5919-4185/FAX 03-5368-1956 E-mail:hoshinokai@star2003.jp

平成25年度 彩星の会 総会 ご報告



若年認知症家族会・彩星の会副代表 M. Y.

♥♥♥参加ができなかった会員さまへ、臨場感をもって報告させていただきます。昨年と違って桜満開を楽しむことはできませんでしたが、穏やかな総会開催日となりました♥♥♥

3月23日(日)昨年と同じ場所の新宿区立障害者福祉センターでの開催です。

昨年の総会終了時間が大幅に遅れたため、定例会時間が十分でなかったことを、反省し定刻の1時に小澤代表より開会宣言がありました。

冒頭、代表より本総会の議長を森副会長へ委任したいとの言葉があり、特に異論がなく森議長の議事進行となった。

受付担当世話人より、参加者26名、委任状69名、合計95名、総数171のメモが議長に渡り、過半数(86)の参加者により本総会は成立していることを宣言して議事進行となり、なお、質問などは議案説明あと、挙手を持って発言の協力依頼をしました。

第1号議案 総括&平成25年度事業報告の件

総会総括については、記載内容を4つの項目に別けて説明をしました。

1) ホシサポのリーダーとして長年お世話になった田中悠美子さんが社会福祉学博士号の学位を取得され、ことしから大学の教職に就かれた。

2) ホシサポの新リーダーとして篠崎かおりさんをお願いします。

3) 当会場で就労支援の一環として行ってきた「喫茶ふれんど」は、昨年10月をもって終了した。リーダーの神保房江さんと世話人の皆さんへのお礼の言葉

4) 今副代表中心としておこなった「アンケート」の意見が反映され、よりよい家族会になるよう進めて行きたい。ご指導お願いの言葉。

この4項目への質問の有無を確認したところ、役員より記載内容記事への異論がでた。議長が報告内容は執行部作成であることを説明。質問役員の協力もあり、意見の応酬はありませんでした。

平成25年度事業報告

各項目の開催月、開催回数、開催内容など詳細に下記の順序で報告。

1) 世話人会の開催は、第2または第3土曜日に新宿事務所で、8月を除き毎月開催。合計11回おこなった。

2) 定例会の開催。奇数月に開催したこと。5月は首都大学荒川キャンパスにて「ほしまつり」を開催した。また初の試みとして、練馬光が丘こども発達支援センターで定例会を行なった。

3) 介護なんでも文化祭への参加は10月、上智大学にて開催された。

4) 当会場主催事業への参加として、11月の「わいわいフェスタ」では、彩星の会家族会の紹介。12月のセンター祭ではバザー開店して、41,241円の売上があり会への収入となった。

5) 相談業務として定例会では、宮永顧問ほか世話

人による個別相談。月、水、金に新宿事務所での世話人による電話相談と面接相談。

6) 会報(ほしだより)を奇数月に第59号から第64号まで発行した。

7) 旅行。昨年は三浦半島のマホロバマインズ三浦へ21人の参加者があった。

以上を読み上げる形式で報告をおこないました。そのあと、総括と平成25年度事業報告への質問の有無を確認したところ、特に異論はなく、議長は挙手を持って採決を行いました。全員賛成で本議案は可決成立したことを宣言しました。

第2号議案 平成25年度決算報告、監査報告の件

続いて、第2号議案へ入る前に議長より、会計担当伊藤美智子さんが昨年死去され、佐野悦子さんに会計代行をお願いしており、質問回答は干場顧問よりいたしますと事前説明をしました。

会計より収支計算書の一部訂正があり、説明のあと読み上げが始まりました。終了あと、出席会員より収入の部のほしまつり売上に対して、原価についての質問がありました。干場顧問より、定例会運営費、雑費など含まれておりますと回答がありました。

収入の部、支出の部の読み上げのあと、貸借対照表と財産目録の読み上げがありました。受付世話人より、監査役の中島さんが出席できなくなったとのメールが届いたことを、説明して、議長が監査報告書を読み上げました。

続いて質問の有無を確認し、特に異議はなく、挙手をもって採決したところ全員賛成で可決成立したことを宣言しました。

第3号議案 平成26年度事業計画(案)の件

配布資料を読み上げる形式で、下記の内容を説明しました。

1) 世話人会の開催。昨年度同様の8月を除き、毎月1回(第2または3)開催 合計11回おこなう。

2) 定例会は奇数月に首都大学荒川キャンパスまたは新宿区立障害者福祉センター。なお5月予定のほしまつりは6月に開催する。

3) 新宿区立障害者福祉センター主催の「わいわい福祉フェスタ」と「センター祭」への参加

4) 相談業務は定例会時に宮永顧問、世話人による個別相談。また、月、水、金に事務所での電話相談と個別相談をおこなう。

5) 会報の発行を奇数月に第65号から第70号まで発行予定

6) 旅行は9月か10月を予定している。

7) その他の事業として、10月18日(土)上智大学にて開催予定。

当議案にたいして質問の有無を確認。特に異議はなく挙手をもって採決したところ全員賛成で可決成立したことを宣言しました。

第4号議案 平成26年度予算(案)の件

会計より配布資料の訂正箇所があり、読み上げるとの説明がありました。読み上げあと、議長より当議案に対しての質問の有無の確認があり、特に異議はなく、挙手を持って採決したところ全員賛成で可決成立したことを宣言しました。

第5号議案 平成26年度 役員候補(案)の件

議長より、役職と候補者名を下記の順序で読み上げました。

代表：小澤礼子

副代表：森義弘

世話人：青津彰、今岡善次郎、糺田佳代子、杉本文江、鈴木富美子、土橋慈子、三谷彰、三橋良博、柳井明子、湯川文子

監事：中島由利子

会計：佐野悦子

庶務：二見しづ子

事務局：篠崎かおり、水村弥生

顧問(代表補佐)：干場功

顧問：宮永和夫、比留間ちづ子、木舟雅子、牧野史子、勝野とわ子

以上、挙手をもって採決をしたところ全員賛成で可決したことを宣言しました。

続いて、議長より小澤新代表へマイクが渡り新年度への心境が述べられた。新役員は壇上への要請にもとづき、出席役員が自己紹介となりました。

最後に、干場顧問より明るいニュースとして、東京都と新宿区に補助金申請の準備中であることが発表された。受理されれば会の財政的に大きな助けになることなど。会場からは拍手があった。

最後に小澤代表より茶話会(定例会)交流会の手順などの案内がありました。

平成25年度彩星の会総会は午後2時50分に閉会しました。開始時間、終了時間がどちらもピットリは珍しいことでありました。お読み下さりありがとうございました。





<総会の様子>

家族定例会 報告

3月23日（日）
新宿区障害者福祉センター

Mグループ

参加者：K（女性）、W（女性）、H（男性）、
S（男性）、N（男性）、M（男性）、H（男性）、
森（男）

当初、森を含め男性介護者3名と女性介護者2名でスタートしたが、後半より男性介護者2名参加となる有意義な意見交換会であった。

Hさんの障害者年金申請から受理までの苦労話。もう少し障害者年金知識があれば無駄な時間を費やすことなくできたこと。この話題から波及して現状を述べあったところおおむね、各自、公的助成金（自立支援など）は受取っているようである。

女性のWさんは、入会あたらしく参加は2回目（最初は光が丘こども支援センター）とのこと。不安はあったものの、家族的雰囲気でき安んできたことが話された。

ご主人は、歩行難しく、夫婦の会話も十分でない。公的支援を受けるための、診断書入手の

ため、都内の多くの病院へ受診したが、診断書を書いてもらえなかった。そのため、名古屋の病院で診断書を手に入れ多種の申請が出来たこと。というくらい診断名が難しかったとのことであった。

森が最近手にした、障害者手帳で、都営交通機関の無料バス利用していることを披露。それについて、S（男性）さんは、駅職員の知識有無でトラブルがあった。など経験談が話された。

途中参加のM、H（男性）による、公的支援への上手な方法など、ノウハウ的な話題となった。

経験豊富なMさんは、都外でも活躍されているので、各自治体によっては、支援内容が違っている現状が話された。国の介護支援への中期的展望も話され参考になった。

（文責：M.Y.）

Iグループ

参加者：7名

テーマ①

笑った思い出…旅行にて。大事に思う。笑うこと。

テーマ②

事例1）65年～8年、要介護1、障害年金1級+鬱かと思ひ服薬。脳ドックでは異常なしだったのに……。やっと受診、アルツハイマーと。昨年再検査。介護者アンケート→どうして私がこんなに書かなくてはならないの？と。アリセプト、病院側の事情で中断。その間に進行して困っている。着替えや行方不明などアリセプトで死亡？病院の対応に疑問。ディサービスはどうか？まだ手元から離したくない。時期の見極め。男性は外に出たらどうか？

事例2）

ご主人がディサービス等に行くと「仲間がいるんだよ」と言った。

その他

健康診断どうするか。ディサービスに抵抗があるなら、ヘルパーさんをたのんで散歩からはじめてはどうか。



（Iグループメモより）

本人交流会



参加者：男性8名、女性5名、計13名
 世話人：6名、サポーター5名、その他7名
 見学者：約10名

毎回、開始時刻を決めてはいるものの、世話人さんたちは定例会の道案内役も兼ねているので、どうしても五月雨的な交流会開始となってしまう。しかし、今回は違った。総会終了後、別室に移っていただいたご本人さんたち、それを受け入れる世話人さんたちが皆揃って「これからほし市場販売促進会議を始めます」と始めることができた。

まずは自己紹介から。ひとり一人ご挨拶。元気はつらつの方もいれば恥ずかしそうに小さな声の人もいらっしやる。でも拍手を受けると嬉しそうな表情になる。



今回のメイン野菜は人参。彩星の会の旅行で2年連続サポーターを務めてくれた、いつもの

千葉県東金市の産直野菜販売所“しいの木”から、二級品だが味は一級品と変わらない八街市産の甘い人参をたくさん仕入れてきた。



皆さんと相談して3本ずつ袋詰め作業をしていたら、足が生えているもの、野原のうさぎさん？がかじったもの、誰かの顔にそっくりのものなど出てきて皆さんの笑いを誘った。

今回も会場設定（机などの配置）に不自由さを感じたかなと思う。手前に座られた人は目が届くけれど。次回はもう一工夫が必要だ。会場が毎回ちがうことの弱点と言えばそれまでだが、やはり彩星の会定例会には、特にご本人交流会には決まった会場が欲しいですね。

次はメインイベントの「太巻き寿司」デモンストレーション。

講師の原秀子さんは、千葉県山武市「太巻き寿司研究会」所属の巻き名人のお一人。もうウン十年も巻きすしを研究し普及し、千葉県房総地域の伝統食を次世代につなげるための活動をボランティアでしておられる。今回のお願いにも快く答えて下さり、彩星の会の活動にご理解を持って、ご本人手作りのジャム、味噌を携えてはるばるお越し下さった。



原さんは話も面白くて、ご本人さんたちからは合の手やダジャレまで飛び出して、耳からも目からもおいしい太巻き寿司デモンストレーションとなった。冗談を言っているうちに最初の1本が巻けた。あっという間の出来事だった。さあ、何が巻けたかな？お味はどうか？





***** (報告 小澤)

グラデーションが見事な‘バラの花’、つぼみまで表現した‘タンポポの花’、五弁の‘梅の花’、包丁でスパッと切ってくれた時の驚きと感動。どれも美しく見事な技に皆さん拍手喝采！気づけばギャラリーもたくさん来ていて、ご本人さんを取り囲んで見とれていました。さっそく皆さんでおいしくいただきました。

休憩もそこそこに、恒例の「ほし市場」販売開始です。セロリ、レタス、ネギ、味噌、ジャム、太巻き寿司、その他を販売。レジには長蛇の列ができました。

レジは大忙し。世話人の皆さん、サポーターさんお疲れ様でした。



(報告 しのざき)

3月総会後の二次会報告

新宿障害者センターで総会、定例会を終了後、場所を移動して新宿アルタ近くの居酒屋「三平」で二次会をやりました。

30名を超える人数が集まり、いつものように居酒屋タイム、またの名をノミニュケーションが始まりました。二次会終了後間際にトラブルが発生しましたが、みな無事で自宅に帰る人、カラオケに行く人に分かれてそれぞれ解散しました。

最近、家族会のご本人さんが行方不明になることが続いた為、我が家は大丈夫と思われている方も多いですが、もしもの時の為に、家族会の数名の方が利用しているペンダントを、参考になればと右コーナーにご紹介させていただきます。

太田彫金(ジュエリータバサ)

両面 ¥4,750
片面 ¥4,250
銀製 (ロジウムメッキ)

日向 絵里花 (ヒュウガ エリカ)

1960/03/16 生
青空県光山市海岸通り1-2-3
012-345-67X9
090-3333-5X55(夫)
090-5555-7X77(娘)

血液：O型

病歴：心不全 不整脈 痛風
常備薬：ジゴキシリン ワーファリン
アロリン

拒絶反応：ナシ

電話 03-3919-8768

FAX 03-3914-3577

メール mado@tabitha.jp

ホームページ <http://www.tabitha.jp>

ID tag

IDタグは、自分の命を守る必需品です

たとえば、不測の事態で自分に意識がないとき、このIDタグがあれば、周囲の人や医師が適切な判断をすることができます。そしてそれが、あなたの命を救うことにつながるのです。



人 今 人

男性 62 歳 特養入所中

主人は4年前に老健から特養に入りました。

5年前位から歩行が出来なくなるのと同時に、自分で食事をすることも言葉を発することも出来なくなり、全介護状態になりました。

週に3、4回は主人に会いに行き、目が合えば笑顔を見せてくれます。職員と私の会話にタイミングよくあいずちを打ったり笑ったりしてくれると、職員たちはとても喜んでくれて「Yさん、ありがとう!」と言ってもらっています。

老健から特養に移った当初は無表情になり、円形脱毛症にもなって、主人は自分の環境が変わりとても不安になっていたのだと思うと、申し訳ないことをしてしまったと入所させたことをとても後悔しました。

半年後位にユニットが変わると、そこ職員の対応が良かったので笑顔をみせたり、職員の動きを目で追ったりするようになり、介護スタッフによってこんなに違うものかと実感しました。

主人は48歳の時に大学病院で診断を受け、2年位は何とか会社に行ってましたが、2年半の休職後に退職となりました。その頃、子供たちは小学生と中学生でした。

主人の病気、子供のこと、住宅ローンもあったので経済的なこと、どれを何を優先すればいいのか分からず、立ち止まる時間も余裕もなく突っ走ってたような年月でした。

本人の不安感、暴言、徘徊、行方不明、薬による変化等、ほんとにいろいろな出来事が次々と起こり、まるで一冊の本になるようなこの14年でした。

私は会社に勤めていましたので、有給だけではもちろん足りず、介護休暇もすべて使い何とか乗り切ってきました（会社側の理解があったのか、私が当然としていたのか）。

でも、自分がこれまでやってこれたのは、やはり子供たちの成長があったからだと思う。中学、高校、大学、社会人へと成長してゆく姿は、大変な時期もちろんありましたが、とてもうれしく頼もしいものです。

子煩悩だった主人も、少しは感じてくれてるかなと思っています。

この彩星の会を知ったのは、新聞記事でした。六本木に事務所があった頃で、“スタープラス”に主人と一緒に出掛けていました。そこで出会った家族のひとたちとお話出来るのがとても嬉しく、また大変勉強にもなりました。

代表の小澤さんもご主人と一緒に来られて、私たちにいつも明るく接してくれていました。ご自身もご主人のことで大変な時でも私の相談に「大丈夫だから、大丈夫だから」といつも言ってもらえて、その言葉が今の私を支えているように思えます。

六本木で知り合いになったみなさんには感謝しています。あの頃はみんな未来は見えなかったけど、いつも希望は持っていたように思います。



～お役立ち情報～

『ユマニチュード』～プレゼントの哲学～

(彩星の会会員 金子さんご紹介)

フランスのジネウト・マレスユッティ研究所において、34年前に考えられた認知症+急性の病気の人達に人間らしい手当を受け入れやすく行う介護法。イブ・ジネストとロゼット・マレスユッティが独り立ちした新しいケアの方法。

【4つのポイント】

- ① **見る** 目の高さを患者さんと同じにして「正面から・近くから・長く見る」。見つめ合う事によって互の存在が親しい関係を作る。
- ② **話しかける** 穏やかに優しく楽しんでいる言葉を話しかけ続ける。前向きなプラスになる言葉を使うことによって共生し「一緒に生きている」事を具体的に感じる。
- ③ **触れる** いきなり触れない。下から優しく広い手の面積を使って撫でるような感じで…。(親指は触れる程度にして掴む感じをもたないようにすることが重要)。
「見る・話しかける・触れる」の仕方で「互が居る感覚で安心のある普通の生活が生まれる」。
- ④ **立つ** これは自ら行動すること。立つこと、歩くことが出来るという事で、本人(患者)が前向きな気持ちを持つ。これが逆に出来なくなると介護する者の負担が大きくなる。

これらのことは、普通の健康な人なら無意識にすでに行っていたこと。それが大事なことに気がついてユマニチュードを創った。フランス人は極めて優れていると思う。

介護の方法論・病気に対する医療のマニュアルの根底にある人間性を意識し「技術と考え方が一緒」になり、人間関係の絆が中心となって患者も介護する我らも幸になる方法だね。これがプレゼントの哲学と言われることなのだろう。

苦しんでいる患者に対するケアもやり方は変化する。神ではないから全てが上手くいくとは言えないだろうが、だからこそ考えを新しく創ることが出来ると思う。ユマニチュードはどこでも出来る当たり前の方法だ。

平成26年4月10日～

松沢病院「物忘れよろず相談」がスタートしました

対象者：認知症の方ご本人、その家族、その他認知症に係る方（匿名相談も可能です）

認知症のタイプは若年性、老年性を問いません

松沢病院に通院している必要はありません

相談受：干場 功氏（彩星の会）

彩星の会会員

— 若年性認知症のサポートでは経験と実績のある方々です —

日時：毎週木曜日 10時30分～16時

場所：14社会復帰支援室 地域開放室

ご予約は不要です。まずは病院の総合案内で「よろず相談希望」と伝え、地域開放室へお進みください。相談が多い場合、お待ちいただくこともありますのでご了承ください。
受診、介護、対応法、経済的質問など何でもご相談ください。

お知らせ

■5月定例会【ほしまつり】

日時：6月1日（日）12：00（受付：11：30～）

会場：新宿区障害者福祉センター2階会議室（別添地図参照）

内容：家族と本人一緒に交流会『ランチ会』

食べ物（巻きずし・サンドイッチ・赤飯など）は実費（¥100～¥200）販売します。

参加費：お一人500円（お茶・菓子・果物・漬物付）

申し込み：ご本人同伴のかたは人数把握のため、いつものように事務局までお知らせください。

「巻きずし体験コーナー」あり（予約必要）

3月の定例会（総会）にお呼びした、千葉県東金市在住の巻き寿司名人原秀子さんが再び登場。8組様≪要予約、先着制≫に千葉房総の食文化“祭り寿司”の技を伝授。

—「巻きずし体験」をご希望の方はお電話で事務局までお申込みください—

事務所電話番号：03-5919-4185

「太巻寿司体験コーナー」

参加費：1000円（太巻き卵・のり8切分）/「サクランボ」もしくは「バラ」の図柄を巻く予定/材料、用具、持ち帰りパック等は全てご用意します。

持ち物：エプロン、三角巾（任意）

■ご相談・ご入会は 彩星の会事務局 までご連絡ください

【相談日】月、水、金 10時～17時

電話：03-5919-4185 FAX：03-5368-1956

携帯電話：080-5005-5298（相談室：干場）

e-mail：hoshinokai@star2003.jp HP：<http://www5.ocn.ne.jp/~star2003>

■年会費 家族会員5,000円 賛助会員A5,000円/B3,000円/C10,000円

■お申込み（ご入金）は下記振替口座宛てにメッセージを添えてお願いします。

郵便振替口座番号：00170-7-463332 加入者名：若年認知症家族会・彩星の会



編集後記

去年は夏の気温が大変高く、植えたゴーヤがあまり大きく成らなかった。今年はどうしようと思ったが、苗を見たら、今年も何事もなく植えて、実のなる夏を待とうという気になりました。

幸せかな？（小）